

日本科学哲学会

第40回(2007年)大会

期日：11月10日(土)・11日(日)

場所：中央大学 多摩キャンパス

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

交通案内：多摩モノレール『中央大学・明星大学駅』から徒歩1分
(モノレールへの接続駅：JR中央線「立川駅」より約16分、京王線「高幡不動駅」より約6分、
小田急線・京王線「多摩センター駅」より約6分)

大会参加費：1000円

プログラム

11月10日(土) (文学部棟)

研究発表

《A会場》(9:15～12:45) 司会1-2: 岡本賢吾(首都大学東京)、3-4: 斎藤浩文(滋賀大学)、5-7: 石垣壽郎(立正大学)

1. 瀬尾 雄三 観測問題を解決するための修正自然主義の提案
2. 北島 雄一郎(日本学術振興会・京都大学) ライヘンバッハによる共通原因の定義の妥当性
3. 山口 健太郎(京都大学) R. A. Fisherによる統計的推論の検討
4. 麻生 尚志(北海道大学) 信頼性主義と科学的知識
5. 谷口 忠大(京都大学・日本学術振興会) 構成論的方法の科学哲学的基盤形成に向けて
6. 野内 玲(名古屋大学) 科学的实在論とモデル～实在論者がモデルにいたる二つの道～
7. 伊藤 孝 空間の構造

《B会場》(9:15～12:45) 司会1-2: 古田智久(日本大学)、3-4: 伊藤邦武(京都大学)、5-7: 金子洋之(専修大学)

1. 中山 康雄(大阪大学) 正当化の帰属説を用いた命題的知識の分析
2. 井澤 清一(岩手県立大学) 阻却要因“r”の定義はどこまで適用可能か?
3. 桜木 新(University of Florida) 命題記憶と知識
4. 村瀬 智之(千葉大学) knowing-howの帰属基準について
5. 池吉 琢磨(大阪大学) 概念プラグマティズムをめぐって
6. 大西 琢朗(京都大学) 証明論的意味論とフレーゲの「意義」
7. 秋吉 亮太(慶應義塾大学) Taitの保存拡大定理について

《C会場》(9:45～12:45) 司会1-3: 佐藤徹郎(新潟大学)、4-6: 藤本隆志(日本大学)

1. 川崎 誠(専修大学) ウィトゲンシュタインのタイプ理論批判とカント及びヘーゲルの思想
—「ムーアへの口述」読解—
2. 佐藤 邦政(東京大学) 「を見る」から「として見る」へ
—アスペクト知覚に習熟するということを手がかりに—
なぜ『論理哲学論考』において文は〈像〉として捉えられているのか
3. 渡辺 大地(桜美林大学) 概念形成・相貌(Physiognomie)・数学の哲学
4. 入江 俊夫(千葉大学) 空間上での物質的対象の一致を現代の実体主義はどう扱うべきか
5. 高橋 伸幸(東京都立大学) 実践的三段論法について
6. 金子 裕介(東京大学)

《D会場》(9:45～12:45) 司会1-3: 金杉武司(高千穂大学)、4-6: 服部裕幸(南山大学)

1. 太田 雅子(お茶の水女子大学) 因果的関連性(causal relevance)と心的因果
2. 村田 徳幸(首都大学東京) 『PFN』における「意識」という概念の分析
3. 寺本 剛(中央大学) ヘテロ現象学再考
4. 小口 峰樹(東京大学) 知覚経験の選言説と概念説
5. 岩月 拓(名古屋大学) 心理測定における妥当性概念の分析
6. 立花 幸司(東京大学) 道徳性の脳神経科学とその哲学的検討

理事会・評議員会・大会実行委員会(12:45～14:00)

総会(14:00～14:30)

特別講演(14:30～15:30)

講演者: 松下 貢(中央大学教授)
講演題目: 現代科学の流れをたどる—フラクタル・カオス・複雑系
司会者: 丹治信春

シンポジウム(15:45～18:15)

「論理学における動的転回(Dynamic Turns in Logic)」
司会者: 山田友幸(北海道大学)
提題者: 岡田光弘(慶應義塾大学)、中戸川孝治(北海道大学)、鈴木 聡(駒澤大学)、山田友幸(北海道大学)

懇親会(18:30～20:30) 会費: 5,000円 会場: 本部棟(1号館)

11月11日(日) (総合政策学部棟)

研究発表

《A会場》(9:15～10:15) 司会: 飯田 隆(慶應義塾大学)

1. 村上 祐子(国立情報学研究所) 自立する可能世界
2. 佐金 武(京都大学) 現在主義と時間の非対称性

《B会場》(9:15～10:15) 司会: 松本俊吉(東海大学)

1. 大塚 淳(京都大学・日本学術振興会) 統合としての目的論
2. 網谷 祐一(ブリティッシュ・コロンビア大学) 種問題における「よい種」の役割

《C会場》(9:15～10:15) 司会: 柏端達也(千葉大学)

1. 星川 道人(東京大学) アクラシアと行為の適化的合理化
2. 鈴木 秀憲(名古屋大学) 「別のようにできる」とはどういう意味か

ワークショップ (10:30 ~ 12:45)

《A会場》

- I. 認知の神経科学的基礎に関する哲学的研究
オーガナイザ: 河野哲也(玉川大学)
提題者: 蟹池陽一(UTCP)、中澤栄輔(東京大学)、原 壘(東京大学)

《B会場》

- II. 非合理性とは何か — 自己と他者、そして行為と戦略
オーガナイザ: 柏端達也(千葉大学)
提題者: 浅野光紀(慶應義塾大学)、塩野直之(福井県立大学)、三好潤一郎(関東学院大学)

理事会・編集委員会・大会実行委員会 (12:45 ~ 13:45)

研究発表 (13:45 ~ 14:45)

《A会場》(13:45~14:45) 司会: 戸田山和久(名古屋大学)

1. 四 津 雅 英(東京都立大学) デイヴィドソンの後期の言語観と、規約・実践依存型の表現の問題
2. 本 山 明日香(大阪大学) クリプキ流本質主義、とは何か

《B会場》(13:45~14:45) 司会: 三浦俊彦(和洋女子大学)

1. 吉 田 敬(UTCP) 政治的プロジェクトとしての社会学
 一フラー、バイオリベラリズム、価値自由
2. 森 崇 行(名古屋大学) 美学の自然化を巡る議論とその自然化の美学的対象

《C会場》(13:45 ~ 14:45) 司会: 美濃 正(大阪市立大学)

1. 内 藤 宏 樹(専修大学) 「理由」の源泉
2. 小 池 翔 一(東京大学) 自己形成的行為の合理性について

《D会場》(13:45 ~ 14:45) 司会: 信原幸弘(東京大学)

1. 中 尾 央(京都大学) 人間行動生態学の意義
2. 荒 磯 敏 文(東京都立大学) 指示と不確定記述

ワークショップ (15:00 ~ 17:15)

III. 感情の自然化はいかなる意味で可能か?

オーガナイザ: 柴田正良(金沢大学)
提題者: 伊藤春樹(東北学院大学)、月本 洋(東京電機大学)、長滝祥司(中京大学)、大平英樹(名古屋大学・心理学)

IV. 双対性から論理と計算を捉え直す—領域理論から量子計算、相互作用の幾何まで

オーガナイザ: 岡本賢吾
提題者: 土谷岳士(都立大学)、渡部鉄兵(東京工業大学)、矢田部俊介(神戸大学)、岩本 敦(麗澤大学)

『科学哲学』バックナンバー

4 (1971年)	20 意識・機械・自然	33-2 心・生命・コンピュータ
5 (1972年)	21 〈私〉の同一性	34-1 (2001年)
6 (1973年)	22 科学と反—実在論	34-2 進化論から見た心と社会
7 記号・情報・論理	23 科学哲学の未来を問う	35-1 (2002年)
8 行為の理論	24 異文化理解の基礎	35-2 クワインの哲学—回顧と展望
9 様相論理学	27 量子力学と物理的実在	36-1 (2003年)
10 心身問題と道徳	28 カオスをめぐって	36-2 ラッセルのパラドックス・100年
11 解釈とモデル	29 特集1 デュエムの科学哲学の現代的意識	37-1 (2004年)
12 言語と非言語	特集2 サイバネティクス	37-2 時間の実在性
13 社会科学と哲学の間	30 近代における科学と哲学	38-1 (2005年)
14 論理とは何か	31-1 (1998年)	38-2 フレーゲの現代性
15 科学哲学の展望	31-2 生物学的説明	39-1 (2006年)
17 合理性とは何か	32-1 (1999年)	39-2 相対性理論100年
18 志向性について	32-2 医療の哲学に向けて	
19 言語理解	33-1 (2000年)	

購入を希望される方は、事務局宛ご連絡ください。(1~3号、16号、25号、26号は在庫切れです。)

●入会を希望される方は日本科学哲学会事務局(〒192-1397 首都大学東京大学院人文科学研究科 哲学教室内
FAX: 042-677-2073、e-mail: philsci@comp.metro-u.ac.jp)へご連絡ください。